

ぶりんぐだより

平成30年度
第2号



児童発達支援事業所ぶりんぐ
帯広市東9条南19丁目4-3
TEL 0155-66-6852
メールbling@imail.plala.or.jp

大雨や地震、猛暑など自然災害による被害が連日のように報道されています。ここの十勝には大きな影響もなく過ごすことができている安堵とともに、いつ何があっても対応できるだけの準備をしておかなければならないと気を引き締められる思いです。
さて、二学期の始まりです。夏休み中に体験したことや、思い出話等沢山話を聞かせたいと思います。

療育雑感 ②



臨床心理学に興味をもち、私がおつばら読み漁った本は「カウンセリング」に関する本でした。クライアント(カウンセリングを受ける人)とカウンセラー(カウンセリングを行う人)とのやり取りは涙があふれ出るほど人間的であり、感動的でした。

カウンセリングにのめり込んだ私は社会学から心理学に専攻を変更し、次第に成人を対象にしたカウンセラーを一生の仕事にしようと思うようになりました、ところがどのようにすればカウンセラーになれるのか皆目見当が付きません。カウンセラーを養成する講座(カウンセラー協会)はありました。しかし、大学に通いながら尚且つ高い授業料を払わなければならないカウンセラー養成講座につき込む金は私にはありませんでした。

どうすればカウンセラーになれるのか見つけられず悶々としていた私に、仲間の一人が子どもを対象とした言葉の教室のアルバイトの募集が大学に張り出されていることを知らせてくれたのです。本来は成人を対象としたカウンセラーを目指していた私でしたが、言葉の教室であったとしても、子ども相手の仕事をしていればいずれは成人を相手にした仕事に就けるかもしれないとの目論見の元、大喜びでアルバイト募集に応募したのです。採用されはしたものの、現実には厳しく、本を読み漁っただけの私にはそれはそれは大変で太刀打ちできない職場でした。アルバイトした言葉の教室は原宿駅の近くにありました。2つの改札口の小さいほうの改札口を出て、横断歩道を渡った小さなビルの二階に教室はありました。元々は吃音矯正の教室でしたが、構音障害児(者)の発音の矯正、発達障害児の言葉の指導と事業の内容を広げていました。学生のアルバイトが受け持たされたのは、知的障害児や発達障害児の言語指導であり、ほんの一部構音障害児の指導でした。

事前の講習や説明も全くなしに担当を受け持たされました。心理学を専攻していたからといって、療育に関しては全くの素人です。読んでいた本はカウンセリングの入門書や遊戯療法を解説した本であり、全くの初心者レベルです。遊戯療法を聞きかじった程度の私では子どもたちには全く対応できませんでした。まずは信頼関係を作るために一所懸命に遊ぼうとはするのですが、一緒に遊ぶという関係にはなりません。

何をすればいいのか模索していた時、大学病院で自閉症児の行動療法を実践している心理の先生が行動療法(応用行動分析)の理論を教えに来てくれることになりました。遊戯療法と行動療法はある意味では対立する理論であり、相容れないものではありませんが、子どもとの関係が作れるのであれば何でもいいとの思いでその勉強会に参加しました。

次回をお楽しみに。

《犬塚》



1, 3週目利用週
2, 4週目利用週

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17 敬老の日	18	19	20	21	22
23	24 秋分の日 振替休日	25	26	27	28	29
30						



日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8 体育の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

おしらせ

6月29日(金)に第1回ぶりんぐおべんきょう会が開催されました。

当日は保護者、関係機関の方、スタッフ合わせ22名の参加があり、ABAについての話と保護者交流会が行われました。前半は参加者の皆様も真剣な眼差しで説明を聞いてくださり、後半は笑いがこぼれる和やかな雰囲気で行われました。

次回開催は10月下旬となっております。開催に際してのご要望等ございましたらスタッフまでお知らせください。

皆様のご参加
お待ちしております。



洗濯バサミの課題

療育の様子

紙皿や厚手の円形の紙に色紙を貼り、そこに同色の洗濯バサミをつけてもらいます。

この課題は、指先(親指と人さし指)でつまむ掴む事が苦手なお子さんに、指先の動きや力の入れ方を覚えてもらい、手先の巧緻性を養うことを目的としています。



また色のマッチング(認識力)や「赤を2個つけてください」と指示に従う指示課題、付ける・外すの動作で集中力の向上も図ります。

<宮嶋>

ぶりばこQ & A

ぶりんぐ入口付近に設置されたぶりばこにお寄せいただいた質問にお答えするコーナーです！
些細なものでも構いません、可能な限りお答えしていきますので気軽にご質問ください。



Q ぶりんぐの先生たちは毎年ポロシャツの色が変わっていますが、だれが決めているのですか？

A その年に入ったスタッフが決めています。

Q 子どもたちがいない時やお休みした時には先生方は何をしているんですか？

A 療育の記録、教材の準備、個別支援計画や評価等の事務仕事を行っています。

Q 課題ってどうやって作ってるの？

A その子に合った課題にするためにスタッフが作ったり、今ある物を改良したり、帯広中の店を探したり、ネットからいろいろな情報を探したりしています。

Q 男の子は何歳までお母さんと一緒にお風呂に入りますか？

A 温泉や銭湯などでの男児が女湯(女児が男湯)に入っている年齢を目安を北海道では9歳(小学3年生)まで(地方自治体によって違います)としています。子どもが親との入浴を“卒業”する年齢は、7割以上が小学1～3年生である一方、小学4年生以上も2割以上いるとされるアンケート結果もあります。画一的に決めることは難しい問題ですが、おおよそこの基準で考えてみてはいかがでしょうか。

Q 子どもと勝敗のつくゲームなどするとき、対等に戦った方がいいの？やっぱり勝たせてあげるようにした方がいいの？

A ケースバイケースです。覚え始めたばかりで、定着させたいならば意欲をなくさないように適度に勝ったり負けたりしていいのではないのでしょうか、始めたばかりの時は勝つ割合を多くします。いずれは負けを受け入れる力が必要になります、徐々に負ける割合を増やしていくのがいいでしょう。実力が拮抗すれば対等に戦っていいと思います。

Q お父さんの言うことは聞くけど、私の言うことはほとんど聞かない。こういう時どうしたらいいんですか？

A お母さんの言うことを聞かないということは、子どもはお母さんの言うことを聞かなくてもデメリットが生じないと思っていると考えられます。そういうイメージが出来上がっています。言うことを聞いてもらいたいのであれば、指示したことをやってもらうことです。「有言実行」です。ただし、叱りつけることなく、言葉少なく、粘り強く頑張ることです。指示を聞いて実行すればほめることができます。これを繰り返し、お母さんの言うことを聞けばいいことがあると思う子に育てることです。コツは「厳しく、かつ優しく」です。

おしらせ②

児童発達支援事業所ぶりんぐ、地域生活支援事業所ぶりんぐ、プリングでは、計画的に学習会を行っています。今年度は5回の開催を予定しています。

ケース検討を行ったり、具体的な支援方法を考えたり、それぞれの事業所での交流を図り共通の認識を持って支援に取り組んでいけるよう研修を深めています。

その第1回が5月下旬、第2回は7月中旬に行われました。

1回目は問題行動のとらえ方や目的、支援方法の考察、2回目は各ケースに合わせた具体的な支援方法について研修を行いました。



本の紹介

今回紹介する本は

「まんがでわかる よのなかのルール」です。

この本は療育のSST課題としても使われています。

小学校高学年までに身につけさせたい社会常識、集団規律、学習規律等の基本ルールを、分かりやすく4コマ漫画で描かれています。文章も簡潔に書かれているので理解しやすいと思います。

お子様と一緒に大人の方も基本的なルールを再認識できる本だと思います。また、巻末に、家庭、学校での使い方が記載されておりご家庭でも活用できる一冊だと思います。



おねがい

●福祉サービス受給者証の提出について

次の場合、受給者証を確認します。

1、受給者証の更新

受給者証の更新は1年です。(市・町より更新時期が異なります。誕生日・年度更新か受給者で確認してください)更新時期が近づきましたら、子育て支援課・障がい福祉課で申請手続きをしてください。

新しい受給者証又はシールが届きましたらお持ちください。当事業所との契約内容を記載します！

2、受給者の記載内容が変更になった場合

<受給者証に新しい内容が記載になりましたら、すぐお持ちください>

- * 住所が変わった。(特に、市・町→他町に移った時は早めに申出を！)
- * 保護者名が変更になった。
- * 二か所以上の児童発達支援・放課後等ディの事業所を利用し、上限管理事業名が決まった。
上限管理事業所名がぶりんぐ以外でも確認します。
- * 上限限度額が変更になった。
- * 支給量が変更になった。例 5日/月⇒10日/月

